

横浜いのちの電話

広報83号

2012.5.1

社会福祉法人 横浜いのちの電話

事務局 〒240-8691 日本郵便保土ヶ谷支店私書箱32号 TEL. 045-333-6163

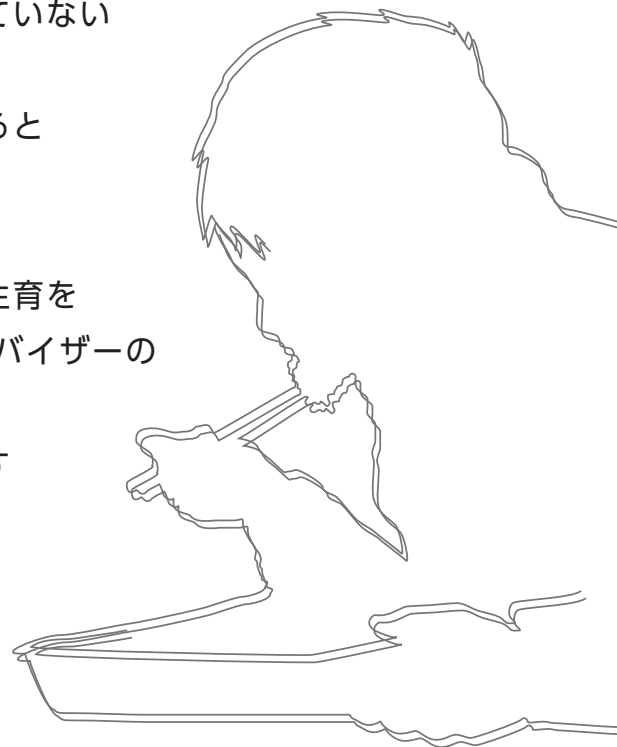
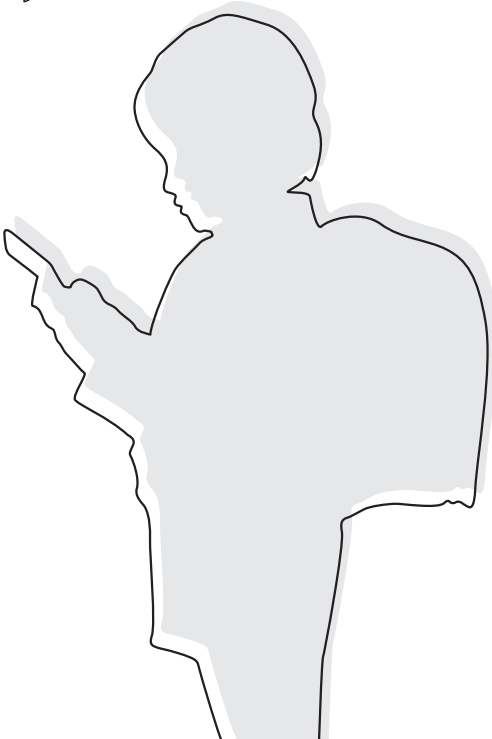
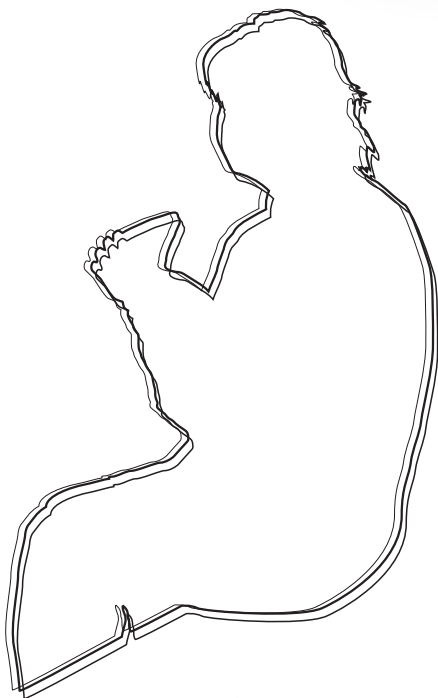
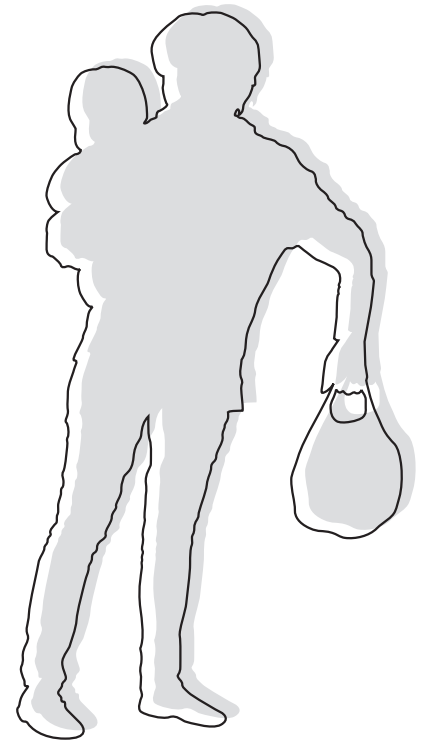
発行人 永野 肇 横浜いのちの電話広報担当(市村・澤野・十川・堀木)

制作 Visual Communication Design Convivia



何でもありの
わたしたちの生活の中で
さまざまなことが
昔の規範から遠ざかっています
便利で楽で自由な志向が
気がつけば 人々の関わりを変え
なかなか元に戻れないことに
気付かされます でも
当の本人達がまだ気付いていない
こわさがあります
あたりまえの生活が崩れると
何が失われるのでしょうか

今号は長い間 子供達の生育を
見続けた 電話相談スパーバイザーの
前田峰子さんの
メッセージをお届けします



こころ病む時代を理解するために

横浜いのちの電話
スーパーバイザー

前田峰子

うつ病の人が増え、人格障害？と思われる人も増え、自殺する人も多くなっています。生物としてのヒトが急激にこのような変化をするとは考えにくく、私たちが生きている社会のありようを考え直さなくてはならないと思うのです。

■ 子どもの発達を観るといふこと

1972年の春に養護学校義務化を控えて療育手帳交付が決まり、心理判定員の不足から以前横浜市児童相談所に勤めていた私に、働かないかとお声がかかりました。前後して保健所の3歳検診も手伝って欲しいとのことで、お受けしました。

子どもの発達を観るといふことは、殆どの場合付き添いのお母さまから妊娠・出産・乳児期の様子など細かいことを伺うのですが、時折子どもの祖父・父・叔父など男性の家族にノイローゼや脳の病気の方がいる、或いは祖母・叔母(母)など女性の家族にヒステリーの方がいるといった話が出るがありました。そんな背景の中で子どもの発達相談の難しさは、目の前にいる子どもの発達のゆがみや遅れを、ご両親に認めていただき、今後どのようなケアが必要なのか納得して頂くことでした。

■ ダウン症児の家族のケース

たとえば小学生のダウン症のお子さんを連れていらして、こんな風になったのは産婦人科医のミスだから告訴したい、その証明書を書いてもらいたいとか、自家用車を歩道に止められる駐車許可証を出してほしいとか、どちらも無理ですと申し上げると大声で怒鳴り、子どもたちが怯えるほどの方もいました。

同じ頃、保健所でお会いした方は、国立病院の小児科に毎月検診に通っていらして主治医から「可愛いお嬢ちゃん」「よく育ってますよ」と繰り返し言われて、でも何か第一子とは違うと相談室に見えました。お子さんは明らかにダウン症の特徴が出ています。が、医師でない私が診断名を告げることはできませんから、私は県立子ども医療センターにいらっしゃるようにと申し上げましたが、お母さまは高名な国立病院の先生に診ていただいているので、今更県立病院には行きたくないと言われました。結局2、3カ月に一回保健所に来ていただき発達の状態

を伺いながら、日常でのケアを伝えました。ほぼ1年が過ぎ集団参加を考えなくてはならないので、再度県立子ども医療センター受診を勧めようとの心積もりで出勤しますと、受付前に母子と母方のお祖母さまが待っておられました。相談室ではお祖母さまから、言葉が全く出ないことの心配が語られ、主治医から毎回「よく育っている」としか言われないことに疑問があると話され、傍らのお母さまも頷いておられたので、ようやく県立子ども医療センターにご紹介いたしました。後日、お母さまから結果報告が入りました。その第一声は「子ども医療センターに行ったら、うちの子と兄弟みたいに良く似たお子さんばかりでした」初めて保健所の相談室に行った時、先生(前田)から「ご家族のどなたに似ていますか?」と聞かれて、そういえば長男かな、私(母)かなって答えましたけど、あの時、なんでこんな質問されるのかと思いましたが、先生は私に気づかせようとおあいう質問をされたんですね。検査の結果は21トリソミーのダウン症と言われました。言葉が遅いことについてはこれから言語科にも行って訓練したり、幼稚園よりもまず少人数の遊びのグループに通うことを勧められました。同じダウン症のお子さんを育てているお母さんたちと知り合えたのも良かったです。と仰られました。およそ一年間の不安と謎が解けて、もちろんダウン症と診断されたことはご家族全員にとってショックではありましたが、泣いている暇はないとすぐ前向きに療育に参加された方もありました。30年くらい前のことです。

■ 赤ちゃんの発達と母親学級父親学級など

昭和から平成に変わる頃、私は児童相談所から、ある市の総合福祉センターの統合保育専門相談員となりました。一方で以前からの繋がりから公民館の家庭学級・母親学級父親学級などの講師もいたしました。

父親学級は他の市町村にはない新しいプログラムでし

たが、将来地元で遊び仲間になれたらという希望を込めて地区別のグループ化も試みました。自己紹介の時、赤ちゃんはどの位見たり聞いたり出来るのかという話になりましたので、赤ちゃんがしっかり目覚めて、ご機嫌の時なら、およそ30センチ位の距離に焦点が合うので、抱っこしてあげるとまじまじと見つめます。この時赤ちゃんは抱っこしている人の瞳に映っている自分の顔や目を見ている。赤ちゃんの聴覚・聞く力を脳波で実験した人がいます。日本人の女性が産んだ赤ちゃんは日本語にだけ反応して脳波が動きますし、フランス人が産んだ赤ちゃんはフランス語のテープが回ったときだけ脳波が活発に動いたことなど男性方はびっくりして聞いておられました。赤ちゃんの発達について簡単な講義の後、妊婦さんの体型と同じような重りを腹部に付けて、動きにくさを実感して頂いたり、新生児と同じ大きさの人形を使って、抱っこや入浴の練習など2時間のプログラムです。はじめは妻に言われて少々参加された方も、来てみたらとても良かった、子どもが生まれたら父子学級もやって貰いたいという方もありました。

新機軸で両親学級が計画され10組のご夫婦で始めたのですが、開始早々からおしゃべりする女性がいました。他の参加者に迷惑がかかると注意しても5分と黙ってられないのです。短大や専門学校の講義でも同様の事態が生じて、私があまりのおしゃべりにしばらく黙っていても、周りの学生が注意しても、中々やめられないのです。この両親学級は長くは続けられませんでした。

■ 自己診断による精神疾患

この頃、相談室に来られる方から、ノイローゼとかヒステリーという言葉が聞かれなくなり、代わって**ボーダーライン**です、とか**パニック障害**ですと自己紹介？される方が出てきました。大きな書店に行けば、それらしい本が平積みと並べられ、当事者の書いたものとしてマスコミにも取り上げられるようになったことと繋がる社会現象の一つだったように思います。

この自称精神疾患は、ほとんどが専門医の診断を受けたのではなく、ご本人が本を読んでそれらしいと思っている、或いはこちらの反応をうかがっているようなので、うっかり頷くこともできません。ご家族のことについても、**ADHD**とか**アスペルガー**ですとか、ネット情報などで括られるので、ことに成長期にあるお子さんに関するご相談はなるべく具体的な毎日の生活状態などを詳しく伺いますと、なぜそんな細かいことを一々聞くのかと反撃されたり、時には私への相談を勧めた担任や管理職に、

専門の言葉を一つも使わなかったが本当に専門家ですかと苦情を言う保護者も出てきました。

■ 授業参観日の光景

以前勤務していた中学校の授業参観日のことです。3年生の教室の廊下を通りかかった時、教室の後ろの方には保護者が7、8人来ておられ、そのうちの2、3人がおしゃべりをしていました。先生は淡々と黒板に数式を書いて説明しておられましたが、その時教室の中ほどの男子が立ち上がり後ろを振り向いて「今日は参観日です。あなた方は何をしに来たのですか。うるさいからしゃべる人は外に出て下さい」と言いました。一瞬しんとして数学の授業は再開。私は廊下を先のほうまで行き戻ってきました。この間5、6分でしたが、元の木阿弥、盛大なおしゃべりが復活していました。社会的な規範よりも私のしたいことをするのが最優先の人が増え、時間・場所を考えて振る舞うことができない大人（年齢だけ）が増えています。小学校の新入生が席に座っていられないとニュースになったのも、ちょうどこの頃からです。

■ 考え直したい社会のありよう

うつ病の人が増え、**人格障害**？と思われる人も増え、自殺する人も多くなっています。生物としてのヒトが急激にこのような変化をするとは考えにくく、私たちが生きている社会のありようを考え直さなくてはならないと思うのです。

乳幼児から大学・専門学校生のさまざまな相談を受けて、大方の症例に共通することは次のようなことです。朝の光とともに目覚め、朝食を一人ではなく家族と共に食べる。幼稚園や学校から帰って、暖かい食事をみんなで頂く。夜は明日の用意をして、遅くも子どもは9時には寝て、睡眠時間をしっかりとる。これが保証されていないことに胸の痛む思いがします。

それぞれの家庭が、それぞれの事情で慌ただしい生活を余儀なくされています。家族が家族として心を育てる時間がどんどん後回しにされ、できあいの食品とテレビゲームが子どもにあてがわれているとすると、ここは誰が育てるのでしょうか。忙しいからそれは無理という高学歴の親たちは、子どもが激しい自傷行為などやらないかぎりなかなか日常行動を改めようとはしません。

かつて当たり前だった生活が大きく崩れ、健康な生活が支えていた部分が見えなくなってしまいました。さまざまな精神疾患が多発している現況は、まさにそのことをわたしたちに突きつけているのではないのでしょうか。



インフォメーション



【日誌 2011.11～2012.4】

2011年

- 11/02 公開講座（古野拓氏）
- 05 相談員委員会
- 05 東京いのちの電話 40周年記念式典
- 07 理事連絡会
- 10 相談関連部会
- 10 フリーダイヤル「自殺予防いのちの電話」
- 14 広報 82号発送
- 15 ホームページをよりよくする会
- 19 東日本広報担当者会議（埼玉）
- 29 藤沢東ロータリー・卓話

- 12/01 相談関連部会
- 03 相談員委員会
- 2-3 全国研修担当者セミナー
- 10 フリーダイヤル「自殺予防いのちの電話」
- 14 ホームページをよりよくする会
- 17 自殺予防シンポジウム（沖縄）
- 18 外国語相談クリスマス
- 21 相談員募集説明会（相模大野公民館）
- 28 仕事納め・大掃除

2012

- 1/01 新統計システム切替え
- 04 事務局仕事始め
- 05 相談関連部会
- 05 理事連絡会
- 10 フリーダイヤル「自殺予防いのちの電話」
- 11 相談員募集説明会（相模大野南公民館）
- 13 相談員募集説明会（相模原市橋本公民館）
- 14 新年会（ホテルプラム）
- 27 フリーダイヤル公開講演会（マリー・クリスチーナ氏）
- 30 かながわ自殺対策会議
- 2/02 相談関連部会
- 04 相談員委員会
- 06 広報部会
- 07 理事連絡会
- 10 フリーダイヤル「自殺予防いのちの電話」
- 13 ホームページをよりよくする会
- 24 ライオンズクラブ講座
- 25 相談員応募者対象説明会
- 27 理事連絡会
- 3/01 相談関連部会
- 2-3 養成研修（1泊研修）
- 03 相談員委員会
- 09 映画会「大鹿村騒動記」
- 10 フリーダイヤル「自殺予防いのちの電話」
- 11 認定会議
- 16 理事会・評議員会
- 24 認定式
- 26 広報部会
- 26 支援会交流会
- 26 ホームページをよりよくする会
- 4/05 相談関連部会
- 06 フリーダイヤルプロジェクト会議
- 07 相談員委員会
- 07 養成研修オリエンテーション
- 09 FIND ひろば編集会議
- 10 フリーダイヤル「自殺予防いのちの電話」
- 23 ホームページをよりよくする会
- 26 理事連絡会

編集後記 多発する精神疾患が常態化しているわれわれの社会のゆがみを、長い経験をもとに描いてくださった前田先生の指摘は、深いところに響く。再生が求められていることがわかる。（ほ）

公開講演会

2012年度 自殺予防のための厚生労働省補助事業

「絵本を通して 心の平和を」

講師 葉 祥明氏（絵本作家・画家・詩人）

日時： 2012年11月11日(日) 14時～

場所： 横浜市社会福祉協議会

社会福祉センターホール

横浜市中区桜木町1-1

参加費： 無料 定員： 300名

受付は9月10日(月)から電話にて事務局まで

☎ 045-333-6163（月～金 9時～17時）

維持会員・賛助会員を募集

眠らぬダイヤルとして24時間体制で電話相談を続けていくためには、運営資金が必要です。維持会員または賛助会員になって資金面でご協力、ご支援下さい。

●維持会員

（定期的に一定額を援助して下さい）

個人 年間1口

3000円 5000円 10000円

法人・団体 年間1口

10000円（何口でも可）

●賛助会員

（任意な時に任意の額を援助して下さい）

※法人は損金算入、個人は寄付金控除があり、税法上の優遇措置の対象となります。

※会員の方には広報紙、事業報告、公開講座、映画会等のお知らせをお送りします。5年ごとに映画会への無料招待があります。

●振込先

郵便局 郵便振替 00240-3-15191

社会福祉法人 横浜いのちの電話

※詳しくは横浜いのちの電話事務局までお問い合わせ下さい。

☎ 045-333-6163（月～金 9時～17時）

毎月10日はフリーダイヤル

ここ

0120-738-556

毎月10日8:00～翌日8:00 24時間・無料です
あなたがつらいとき、近くにいます。ひとりで悩まないで、こころの苦しみを話して下さい。

自殺予防 いのちの電話です

神奈川県共同募金会からの配分金

24年度はワイヤレスアンブセットに充当します。

横浜いのちの電話 秋の催し

jammin' Zeb ジャミン・ゼブ コンサート



●日時 2012年10月26日(金)

18時30分開演予定

●会場 関内大ホール(横浜馬車道)

前売券 3,000円 当日券 3,500円

(全席自由 6月1日チケット発売予定)

お申込み・お問合せ ☎ 045-333-6163

ジャズ・コーラスをベースにエンターテインメントを繰り広げる、4人の個性豊かなヴォーカリスト集団・jammin' Zeb。グループ名は「楽しくジャム・セッションするシマウマ」に由来します。平均身長180cm、全員が絶対音感をもっており、ステージ上での存在感は抜群！ときに繊細、ときにダイナミックなコーラスのサウンドはジャンルを超え、若くして既に世界的レベルの実力と高い評価を得ています。

曲目

Smile（スマイル）

Take The "A" Train（A列車で行こう）

When You Wish Upon A Star（星に願いを）

Route 66（ルート66）

世界に一つだけの花

さくら

…などを予定

ひとりぼっちで悩まずに…

だれかと話したいとき ところ寂しいとき

横浜いのちの電話相談

045-335-4343（24時間体制）

●エイズ相談 045-335-4343

●ファクス相談（聴覚言語障害者のための）

045-332-5673（月～土・9時～17時）

ファクス相談は2013年3月31日で終了します。

外国語電話相談

●ポルトガル語

045-336-2488 0120-66-2488

水 10時～21時 土 9時～21時

●スペイン語

045-336-2477 0120-66-2477

水 10時～14時 19時～21時

木・金 19時～21時

土 12時～21時